

学習内容報告書 フォーマット

学校名	青ヶ島村立青ヶ島中学校
授業者	松尾 麻耶

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「海」～青ヶ島から見つめる私たちの海～

1-2. 学年

第1学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

本単元は、本校の「総合的な学習の時間」の目標を基に、「課題設定能力」、「情報分析能力」、「まとめる力・表現力」について移動教室の現地調査を柱に海洋教育の視点を踏まえて設定した。「課題設定能力」では、海に関して自分の興味関心に合った探求テーマを見つけ、見学地での学習から学びを深めさせる。「情報分析能力」では、自らの探求テーマに沿って必要な情報を収集し、多角的に分析する力の伸長を図る。「まとめる力・表現力」では、事前の学習や現地調査から学んだことを分かりやすくまとめ、発表することを目標とした。発表内容の展開では、改めて海洋教育の視点を踏まえ、興味関心のある事柄に対して事実を基に仮説を立て、現地踏査やインタビュー活動を通して得た情報から考察をする、という流れを確立させる。また、発表の際には ICT の能力向上のためにパワーポイントでの資料作りに力を入れる。3年間を通して、「青ヶ島」と「海」との関わりについて学びの深め、探求的な学習に主体的・協働的に取り組むことでその価値と意義を生徒自身が実感できるような取り組みにしていく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

青ヶ島は、得意な地理的条件をもつ島であり、日本で有数の渡航困難な島である。日常の生活圏からは常に太平洋を一望できる環境にはあるものの、海と日々の暮らしの関係について意識をしたり考えたりする機会が限られていた。本単元をとおして、生活と深く関わりのある「海」について学び、青ヶ島と自分との関わりを見直させたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・海と自分との関わりを見直しをとおして、生まれ育った青ヶ島への思いを深め、心豊かな生徒を育成する。
- ・自ら課題設定をし、テーマについての探究活動をとおして、課題解決学習への意欲を育む。
- ・体験や現地調査から学んだことをまとめ、分かりやすく発表する力を身に付ける。

1-7. 単元の展開（全23時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 3	○移動教室オリエンテーション ・概要説明 ・コース決め ・係決め	<教師の指導> ・移動教室や海洋教育の目的を確認し、探求課題の設定に見通しをもたせる。 【課題設定能力】
4 8	○事前学習 ・テーマ設定 ・海洋大学訪問に向けて ・設定したテーマに関する情報収集	<教師の指導> ・生徒が興味を抱いた事柄について主体的に学習に取り組めるよう支援し、テーマを設定させる。 【課題設定能力・情報分析能力】 <外部連携> 講師：田口康大先生【東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任講師】
9 11	○移動教室 ・横浜方面 ・東京海洋大学	<教師の指導> ・各施設においてそれぞれのテーマに関連した情報を幅広く収集させ、事後指導で多角的に分析できるようにさせる。 【情報分析能力】 <外部連携> 国立研究開発法人海洋研究開発機構「JAMSTEC」 横浜みなと博物館
12 14	○事後学習 ・情報整理 ・探求テーマ設定 ・探求テーマに関する情報収集、整理 ・村民へのインタビュー活動	<教師の指導> ・収集した情報を基に、改めて探求テーマについて考えさせる。 ・インタビュー活動を通して得た知識を活用させる。 【課題設定能力・情報分析能力】
15 20	○学習発表会準備 ・発表スライド作成 ・発表原稿作成 ・発表練習	<教師の指導> ・情報を整理し、テーマに沿って学習の成果をまとめさせる。 ・学習の成果を効果的に発表する工夫を考えさせる。 【まとめる力・表現力】
21 23	○学習発表会リハーサル ・発表の流れの確認 ・発表指導	<教師の指導> ・「わかりやすい発表」をめざし、発表内容の論理展開、視覚的な情報の提示、聞き取りやすい話し方等を工夫させる。 【まとめる力・表現力】

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

移動教室で得た情報や学んだ内容を整理し、探究テーマを設定する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none">・移動教室後の事後学習の流れを確認する。・本時の目標を確認する。 <p>【展開】</p> <ul style="list-style-type: none">・探究テーマを設定する上での「探求の視点」を提示する。・「探求の視点」を参考に、年度当初に決めた自分の興味があるテーマに沿って情報を整理する。 <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none">・進捗状況を確認し、次回の取り組み方を共有する。	<ul style="list-style-type: none">・学習発表会での発表を意識させて取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none">・生活、観光、歴史など、12の「探求の視点」を提示することで、設定する探究テーマと海洋教育の趣旨が一致するようにする。・生徒に学年教員がペアになり、質問を交えたやり取りを繰り返しながら、移動教室で得た情報や学んだ内容の中から必要な情報を抜き出す。・青ヶ島における自分の生活との関連を意識させ、単なる情報のまとめにとどまらないようにする。 <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none">・課題意識をもって探究テーマを設定できたか。 ＜行動観察＞ <ul style="list-style-type: none">・学習発表会までの時間を確認する。

3. 今回の活動の自己評価

事前学習や移動教室の間に学んだ内容や収集した情報は膨大である。情報整理を円滑に進めるために学年所属の教員がそれぞれの生徒とペアになり、対話を通して必要な情報をまとめたことは有益であった。限られた時間の中で事後学習を進める第1歩として適切な手段であったと考えている。さらに、学年の教員が生徒の考えや進捗状況を同時に把握することができ、共通理解を図った学年としての指導にもつながったと考えられる。

また、事前学習や移動教室を受けての探求テーマ設定のプロセスにおいて、海洋教育の12の「探求の視点」を提示したことは、海洋教育の趣旨に沿った探求学習を進めていく上で効果的であったと感じている。特に中学1年生は、小学校までの調べたことをまとめるという流れから前進し、さらに深く学習を行うことが必要である。提示された「探求の視点」を参考に、学んできたことを「自分ごと」として捉え直し、探求テーマ設定を行ったことは、学習意欲の向上にも寄与していると感じられた。

4. 今後の課題

限られた時間の中で、必要な情報を効率よく収集し分析する必要がある。収集にばかり時間をかけてしまうと、分析がおろそかになり深い学習につながらない可能性があるため、学年の教員が細かく進捗状況を確認しながら学習を進めさせる。その際、多面的に捉える意識ももたせる。

情報をまとめる中で、事後学習で得た情報にのみ着目しがちである。事前学習や移動教室での学びから、なぜ疑問が生まれ、どのようなプロセスで課題設定に至ったのかを明確にしながら、事後学習と関連させて発表の準備をさせていきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

探求学習の柱を明確にし、3年間を見通した系統的な取り組みにする。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端20mm、左右端16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。